

中国短期大学における選択科目「ポピュラー・ソング」での 文法事項の取扱い (1)

How Grammar Items are to be Introduced into the Teaching Procedure of the Subject “Popular Song” at Chugoku Junior College (1)

(2012年3月31日受理)

大橋 典晶

Noriaki Ohashi

Key words : 英語教育, ポピュラー・ソング, 文法

概 要

中国短期大学英语コミュニケーション学科の選択科目「ポピュラー・ソング」における文法事項の取扱いについて、情意面を重視する目標設定と授業を行うというこれまでの取組の成果を評価した上で、これまで授業で使用した楽曲それぞれにおける文法事項の取り扱い方を考察した。その考察を基に、半期の指導計画を提案した。

はじめに

中国短期大学（以下、「本学」と言う）では、2008年度入学生から「ポピュラー・ソングA・B」を英語コミュニケーション学科（以下、「本学科」と言う）の専門選択科目及び他学科開放科目として導入した。2009年度入学生からは「ポピュラー・ソングB」を廃し、「ポピュラー・ソング」として1年生前期(他の学年・学科からも履修可)で開講している。本学の教育においては、「楽習力」がキーワードであり、本学科も「英語“楽”習」をキーコンセプトとして専門教育を行っている。「ポピュラー・ソング」も「“楽”習」の一翼を担うべき科目である。大橋(2009)では、指導目標と選曲についての考察をおこなった。続いて、大橋(2010)では、「ポピュラー・ソングA」と「ポピュラー・ソング」での取組を、教材の有効性と指導手順という観点からまとめた。

本稿では、科目「ポピュラー・ソング」(本文においては「本科目」と言う)での取組を「文法」という観点からまとめ、指導計画を提案した。なお、本稿で「楽曲」という意味で用いている「ポピュラーソング」とは、英語の歌詞を持つ曲全てのことであり、音楽の専門分野に

おける分類にかかわらず、指導者が英語学習に使えると判断した楽曲を広くカバーすることができる用語として用いている。この点は、上記の論文と同じである。また、「文法」、「文法項目」という用語は、中学校学習指導要領第2章第9節「外国語」の中の「英語」の「言語材料」における「文法事項」、及び高等学校学習指導要領第8節「外国語」の「英語言語材料」の中の「文型」及び「文法事項」として示されている事項を含むと同時に、「語法」も含むものとして本稿では用いている。

1 科目「ポピュラーソング」と文法指導

中国短期大学「平成23年度 学生便覧・授業概要」(2011)では、本科目の主たる到達目標を「英語に対する関心と、英語学習を楽しむ態度を持つこと」としている(3-23)。この到達目標に対応して、成績評価は、授業への参加態度とレポートを総合的に判断することとしている。このような到達目標・評価基準を設定するに至った経緯の中で、大橋(2009)では、言語学習の教室に音楽を取り入れる理由として、表1に示す効果を提案している(38)。表1は、土屋(1996)、中嶋(2000)、Le(1999)、

Lems (2005), Murphey (1992), Schoepp (2001), を参考に、大橋が提案したものである。

表1 言語学習の教室における音楽のもたらす効果

情意的理由	最小のコストで学習者がリラックスでき、言語学習が楽しくなる。
	聞き手の目的に合わせてそれぞれに歌詞を解釈することが可能であり、詞の内容やメロディーと自分の感情・考え・生き方を一体化させられる。
	話すよりも歌うほうがやさしく、気楽に始められる。
	青年期における周りからの愛情の減少を補い、欲求を満たす。
	学習者同士、及び教師と学習者の間の心の通い合いがしやすい。
	歌を歌えるようになることで自信が生まれる。
認知的理由	繰り返しを意味の一貫した文脈の中でかなりの程度持っているため、なじみやすく、言語使用の自動化を助ける。
	最後に聞いた歌が頭の中で流れ続けたり、頭に長く残ったりしやすいので、文法や単語などが定着しやすい。
	音感がよくなると、語学が学習しやすい。
言語的理由	歌の歌詞に触れることは、学習者が今後出会うであろう本物の言語に向けての準備となる。
	歌は口語表現の宝庫である。
	歌は古い表現も残している一方で、文法の変化を先取りしている。
	統語・語彙などから見て複雑なものもあり、分析的な授業になじむ場合がある。

大橋 (2009) は、表1の3観点(理由)を考慮しながら目標を決定し、授業の実施に当たっては「情意的理由」を最も重視するべきであって、英語力の伸長は副産物とすべきであると述べている(38)。大橋(2010)では、教材の選定に学生の意見を反映させることが学習に対する良好な態度をもたらす(23)ことを述べる一方で、2009年度の授業では、学生からの意見を踏まえて内容理解に充てる時間を増加させた(27)ことが述べられている。

このように、指導目標・評価基準は変更しないものの、授業での教材の取扱は、学生からの意見を反映しながら毎年改変を加えてきている。内容理解(文法)を重視する方向に改変したか、あるいは軽視する方向に改変したかを概観すると、2008年度(平成20年度)を基準に言えば、2009年度、2010年度は、より重視する方向に毎年進み、2011年度には前年より軽視する方向に進んだ。2011年度は、2009年度と同程度と考えてよいと思われる。この変遷の中で、学生による授業評価がどのように変化したかを授業評価アンケートの集計結果を基に考察する。

本学では、各学期の終期に無記名式の学生による授業評価アンケート(以下、「アンケート」という)を実施

している。履修者が5名以上の科目については、すべての科目で実施し、項目ごとの5段階評価を集計して各授業担当者に集計結果をフィードバックしている。5段階とは、「そう思う」(5)、「どちらかといえばそう思う」(4)、「どちらともいえない」(3)、「どちらかといえばそう思わない」(2)、「そう思わない」(1)である。これ以降の表については、これらの評価の段階を、言葉ではなく5~1の数字で表すことにする。なお、アンケートは、実施日当日の出席者のみに対して行っており、履修者数とは必ずしも一致しない。

本稿では、この資料を基に、本科目(2008・2009年度は「ポピュラー・ソングA」)の結果と「グラマー&ユーセッジ」(以下、「グラマー」という)の結果を年度ごとに対比しながら4年分の表にまとめた(表2-2)。比較に用いたアンケート項目は、表2-1に示すとおりであるが、「情意的理由」と「認知的理由」とを尋ねる質問を選定している。これらの質問項目を選んだ理由は、「情意的理由」のほうは指導目標の適切さを検証するためであり、「認知的理由」の方は、文法指導を導入することの是非を検討するためである。「グラマー」と比較

した理由は、まず「グラマー」の授業内容は、名前の通り「文法・語法」を取り扱うものであるため、本科目での文法指導を考察するという本稿の論旨に適う比較対象であると考えたからである。また、この科目が本科目と同時期である1年生前期に開講され、履修者もかなり重複していることも考慮して選んだ。

ただし、「グラマー」は本学科1年生の必修科目であるために、本学科の1年生は全員履修することになる。そのため、「情意的理由」に対応する質問項目の結果は、

本科目が選択科目であることから、グラマーが本科目より低くなる傾向にあることが予想される。どの程度の差があるとみればよいかを検証するため、表2-3を作成した。表2-3は、表2-2で対比している年度の同じ時期に、必修科目・選択科目の間にどの程度の平均点、評価の差があるかを示している。表2-3は、中国短期大学のすべての学科、すべての科目を必修科目と選択科目に分け、評価の段階(5~1)別の人数、その累積比率、評価の平均である。

表2-1 対比に用いたアンケート項目

観点	項目	アンケート項目(質問の内容)
情意的理由	1	授業の内容は、あなたにとって興味あるものでしたか。
認知的理由	2	授業の内容は、あなたにとって理解しやすいものでしたか。
	3	あなたは、この授業で新しい知識や技術が身についたと思いますか。

表2-2 アンケート結果の対比

アンケート項目 ²	科目 ³	2008年度 ⁴ n(P)=20 ⁵ n(G)=30	2009年度 n(P)=12 n(G)=23	2010年度 n(P)=18 n(G)=23	2011年度 n(P)=7 n(G)=13
1	P	4.3(3.8)	4.8(3.8)	4.8(4.0)	5.0(3.9)
		45.0-85.0-100.0	83.3-91.6-100.0	77.8-100.0-100.0	100.0-100.0-100.0
	G	3.8(3.8)	4.3(3.8)	4.7(4.0)	4.7(3.9)
		16.7-60.0-100.0	47.8-78.2-100.0	69.6-95.7-100.0	76.9-92.3-100.0
2	P	4.2(3.7)	4.4(3.7)	4.7(3.9)	4.9(3.9)
		45.0-75.0-100.0	58.3-83.3-100.0	72.2-100.0-100.0	85.7-100.0-100.0
	G	3.9(3.7)	4.4(3.7)	4.8(3.9)	4.7(3.9)
		23.3-70.0-100.0	65.2-82.6-95.6	82.6-95.6-100.0	76.9-92.3-100.0
3	P	4.3(3.9)	4.6(3.9)	4.7(4.1)	4.7(4.1)
		45.0-80.0-20.0	66.7-91.7-100.0	72.2-100.0-100.0	71.4-100.0-100.0
	G	3.9(3.9)	4.2(3.9)	4.7(4.1)	4.7(4.1)
		30.0-56.7-100.0	43.5-87.0-95.7	78.3-95.7-100.0	76.9-92.3-100.0

¹ 表1に示した3観点(理由)。

² この項目の番号は、表2-1で示した項目の番号と一致する。

³ 「G」は「グラマー&ユーセッジ」、「P」は「ポピュラー・ソング(A)」を表す。

⁴ 各年度の下にある数字は、上段が当該設問の5段階評価(5「そう思う」から1「そう思わない」)の平均とカッコ内に全科目・全教員の平均。下段は、左から順に5段階、4段階、3段階の累積比率(%)。

⁵ n(P)は、「ポピュラー・ソング(A)」の回答数、n(G)は、「グラマー&ユーセッジ」の回答数

表2-3 必修科目と選択科目間の評価の差

項目1 授業の内容は、あなたにとって興味あるものでしたか。

H20前期	5	4	3	2	1	未回答	人数計	平均
必修科目	795	774	607	142	59	2	2379	3.89
同累積%	33.4%	66.0%	91.5%	97.5%	100.0%			
選択科目	1590	1684	1664	364	164	8	5474	3.76
同累積%	29.0%	59.9%	90.3%	97.0%	100.0%			

H21前期	5	4	3	2	1	未回答	人数計	平均
必修科目	283	438	474	161	36	1	1393	3.55
同累積%	20.3%	51.8%	85.8%	97.4%	100.0%			
選択科目	958	1015	997	267	141	3	3381	3.71
同累積%	28.3%	58.4%	87.9%	95.8%	100.0%			

H22前期	5	4	3	2	1	未回答	人数計	平均
必修科目	814	626	491	75	24	0	2030	4.05
同累積%	40.1%	70.9%	95.1%	98.8%	100.0%			
選択科目	1739	1393	1169	272	104	6	4683	3.94
同累積%	37.1%	67.0%	92.0%	97.8%	100.0%			

項目2 授業の内容は、あなたにとって理解しやすいものでしたか。

H20前期	5	4	3	2	1	未回答	人数計	平均
必修科目	674	824	639	180	59	3	2379	3.79
同累積%	28.3%	63.0%	89.9%	97.5%	100.0%			
選択科目	1396	1743	1692	469	165	9	5474	3.68
同累積%	25.5%	57.4%	88.4%	97.0%	100.0%			

H21前期	5	4	3	2	1	未回答	人数計	平均
必修科目	218	421	486	216	51	1	1393	3.39
同累積%	15.6%	45.9%	80.8%	96.3%	100.0%			
選択科目	804	1003	1085	333	154	2	3381	3.58
同累積%	23.8%	53.5%	85.6%	95.4%	100.0%			

H22前期	5	4	3	2	1	未回答	人数計	平均
必修科目	758	634	519	97	20	2	2030	3.99
同累積%	37.3%	68.6%	94.2%	99.0%	100.0%			
選択科目	1570	1437	1251	305	104	16	4683	3.87
同累積%	33.5%	64.4%	91.2%	97.8%	100.0%			

項目3 あなたは、この授業で新しい知識や技術が身についたと思いますか。

H20前期	5	4	3	2	1	未回答	人数計	平均
必修科目	850	829	560	92	47	1	2379	3.99
同累積%	35.7%	70.6%	94.2%	98.0%	100.0%			
選択科目	1668	1906	1495	265	128	12	5474	3.86
同累積%	30.5%	65.4%	92.8%	97.7%	100.0%			

H21前期	5	4	3	2	1	未回答	人数計	平均
必修科目	259	489	485	124	30	6	1393	3.59
同累積%	18.6%	53.9%	88.9%	97.8%	100.0%			
選択科目	959	1092	988	221	120	1	3381	3.75
同累積%	28.4%	60.7%	89.9%	96.4%	100.0%			

H22前期	5	4	3	2	1	未回答	人数計	平均
必修科目	999	556	402	70	34	1	2062	4.17
同累積%	48.4%	75.4%	95.0%	98.4%	100.0%			
選択科目	1508	1302	933	112	53	8	3916	4.05
同累積%	38.5%	71.9%	95.8%	98.6%	100.0%			

表2-2からの考察を行う前に、表2-3から、必修科目と選択科目との間の評価平均の差はどの程度であると予想すればよいかを考察する。各項目ごと、年度ごとに、平均、累積比率を比較してみると、予想に反して、ほとんど差がないことが分かる。平成21年度は、選択科目の方が平均が大きく累積比率も高い。これらのことから、必修科目と選択科目の評価の差がある場合は、必修か選択かという要因が影響したのではないと考えることにする。

次に、表2-2の対比による考察を行う。まず、本科目と文法とを年度ごとに比較すると、情意的理由に対応する質問（アンケート項目1）については、どの年度においても本科目の方が平均・累積比率ともに評価が高いと言える。一方、認知的理由に対応する質問（アンケート項目2・3）については、どの年度においても平均、累積比率ともに特徴的な差はみられない。

次に、年度を追って変化を見ると、いずれのアンケート項目についても、変化の傾向が似通っている。すなわち、2010年度に向かって数字が上昇し、2010年度から2011年度への変化は小さいというものである。表2-3

にある全科目・全教員の平均も、2009年度から2010年度へは上昇し、その他の年度は前年と同じ、という傾向が見える。

以上のことから、本科目の目標設定の評価と教材の取扱いに関して、どのような示唆をくみ取ることができるかを考察する。まず、情意的理由に対応する質問（アンケート項目1）について、どの年度においても本科目の方が平均・累積比率ともに評価が高いことから、情意的理由を最も重視するという目標の設定は、学習者の興味を高めることに効果があると考えられる。一方、年度ごとに変化させてきた文法を重視する度合いの改変は、いずれのアンケート項目（2・3）を見ても、アンケート結果の変化として読み取ることができないことから、学生が文法の指導の効果を実感することに影響を与えたとは言えない。全科目・全教員の平均の変化よりも本科目の平均の変化が大きいのは、履修者数が少ないことにより、その傾向がより顕著に出たものとみることができる。

以上のことから、情意的理由を最も重視するという目標の設定を維持しながら、内容理解（文法）を軽視しすぎることなく、英語力の養成をより積極的に目指すべき

であると考えすることは合理的である。

2 教材として使用した楽曲と指導可能な文法項目

前項で述べたとおり、文法指導を本科目に取り入れることは、授業の教育効果を阻害しないと考えられる。したがって、より認知的な授業を計画することは、これまでの授業の効果に新たな効果を加えられる可能性がある。本項では、2008年度から2010年度の授業に使用した楽曲について、教材として取り扱うのに適している文法項目を挙げ、より認知的な授業を計画する基礎資料とする。

結果は表3の通りであるが、2点についてご留意いただきたい。第1には、情意的理由を最も重視するという目標は維持していることから、文法項目は1曲につき3

項目以内に限定した。その理由は、文法指導をすれば、歌詞全体を味わう時間が減少し、教師の説明時間や文法の練習時間が増加するために、情意面を重視した目標とは相反するからである。その意味で、表題を「指導可能な」とした。逆に言えば、これ以上の文法項目を詰め込むことは、本来の目標を見失うという危険をはらんでいるという意味である。第2には、表3では、「指導可能な文法項目」という表記を用いているが、この項目に「語法」も含まれるのは、先に述べたとおりである。なお、曲の掲載準は、発表（リリース）の年の順としている。カバー曲については、授業で使ったバージョンの発表年を使用している。また、授業で使った曲のうち、興味づけのみに使用し、内容理解をあえて行わなかった楽曲⁶については、表から割愛した。

表3 楽曲と指導可能な文法項目

No.	曲名	年	アーティスト	指導可能な文法項目	該当箇所 (例)
1	The Tennessee Waltz	1950	Patti Page	時制 ⁷ (現在形 / 過去形 / 現在完了形 / 過去進行形)	I remember the night / I lost my darling / how much I have lost / I was dancing
2	Jamaica Farewell	1956	Harry Belafonte	時制 (現在形/過去形) / 助動詞willを用いた未来表現	the nights are gay / I took a trip / (I) won't be back
3	Itsy Bitsy Teenie Weenie Yellow Polka Dot Bikini	1960	Brian Hyland	時制 (現在形 / 過去形) / 接続詞のthat / be afraid to/ that ~	Now she is afraid to come out / She was afraid that somebody would see
4	Oh, Pretty Woman	1960	Roy Orbison	命令法 / 命令・依頼の表現	Stop awhile / don't walk on by / won't you pardon me?
5	Locomotion	1962	Little Eva	命令法 / 命令・勧誘の表現	Do it nice and easy / You gotta swing your hips / Let's make a chain
6	Hey Paula	1963	Paul & Paula	品詞 (動詞・名詞) / marry (他動詞)	My love / If you love me... / I want to marry you
7	The Sounds Of Silence	1966	Simon & Garfunkel	関係代名詞のthat	a neon light that split the night
8	Bridge Over Troubled Water	1970	Simon & Garfunkel	接続詞 when	When you're weary, ...
9	El Condor Pasa	1970	Simon & Garfunkel	仮定法過去 / would rather ~	Yes, I would / I'd rather be a sparrow than a snail
10	The End Of The World	1973	The Carpenters	疑問詞(why / how) / 関係疑問文 / 否定疑問文	Why does the sun go on shining? / I can't understand how life goes on / Don't they know it's the end of the world?

⁶ たとえば、Hotel Californiaを取り扱う際のTake It Easyが挙げられる。Eaglesのデビュー曲かつ最初のヒット曲であり、テレビ番組などでも学生が耳にしたことがある可能性が高い曲であるので、Hotel Californiaの導入として触れることは意義があると考えている。

⁷ 筆者は、動詞には時制（現在・過去）と相（単純・進行・完了）があるという立場をとるが、中・高等学校の現場では、未来時制を加えた上で、すべてを「時制」という概念でまとめ、分類している（例えば「現在完了形」）。これを踏まえて、学生に対しては、「相」という用語は使わない。中・高等学校学習指導要領での用語を使用している。

No.	曲名	年	アーティスト	指導可能な文法項目	該当箇所(例)
11	Yesterday Once More	1973	The Carpenters	時制(過去完了)/使役動詞 make	How I wondered where they'd gone / It can really make me cry
12	Annie's Song	1974	John Denver	前置詞like / Let me ~	like a night in the forest / Let me love you
13	Saturday Night	1975	Bay City Rollers	口語の短縮表記gonna / gotta	Gonna keep on dancin' / I gotta go
14	Hotel California	1976	Eagles	知覚動詞hear / 感嘆文	I thought I heard them say / What a nice surprise
15	Sir Duke	1976	Stevie Wonder	前置詞(within / with / inなど) / all over	a world within itself / With an equal opportunity / in the groove / They can feel it all over
16	Honesty	1979	Billy Joel	副詞(hardly / mostly) / might just as well	Honesty is hardly ever heard / mostly what I need from you / You might just as well be blind
17	I'm In The Mood For Dancing	1980	The Norlands	感情表現(in the mood / feel like / in the groove)	I'm in the mood for dancing / I feel like dancing / I'm in the groove
18	We Are The World	1985	USA for Africa	関係副詞when	There comes a time when we heed a certain call
19	I've Never Been To Me	1986	Charlene	仮定法過去完了 / ain't	unborn children that might have made me complete / some things that a woman ain't supposed to see
20	Tears in Heaven	1992	Eric Clapton	仮定法過去	Would you know my name if I saw you ...
21	Don't Want To Miss A Thing	1998	Aerosmith	知覚動詞(hear・watch・feel) / 仮定法過去 / wonder+what/if ~	just to hear you breathing / I'd miss you / Wondering if it's me you're seeing
22	The One	1999	Backstreet Boys	関係代名詞who	I'll be the one who will make all your sorrows undone
23	Never Had A Dream Come True	2000	S Club 7	仮定法過去と過去完了 / There is no use ~ ing / no matter where/how ~	How it could be now or might have been / There's no use looking back / no matter where love takes me to
24	Can't Take My Eyes Off You	2001	Sheena Easton	To不定詞 / too ~ to...	You'd be like Heaven to touch / There's nothing else to compare / I need you, baby, to warm a lonely night / You're just too good to be true

それぞれの楽曲には、上記以外にも指導可能な文法項目は含まれている。しかし、前述のとおり、1曲につき3項目以内に限定してある。表3が示しているのは、それぞれの文法項目を特定の楽曲で時間をかけて説明・練習するのが印象に残りやすいのではないかとという提案である。印象に残りやすいと考えた判断基準は、サビの部分なのでその楽曲で繰り返されること、あるいは歌詞のなかで具体的なイメージが湧きやすかったり、感情に訴える部分であったりすることである。

3 指導計画案

本科目は、1年生前期に開講する科目であり、15回の授業計画は「中国短期大学平成23年度 学生便覧・授業概要」に示されている(3-23)。その計画は大まかなもので、リリースの年代順に学ぶことが示されているものの、楽曲の選定のために学生のアンケートを行うことも書かれているし、計画全体を学生の実態に応じて柔軟に変更することも明記されている。これまでは、アンケート結果を最も重視し、文法項目についてはあまり考慮しないで、あるいはあえて軽視しながら楽曲の取り扱い順を決めてきた。

しかし、前項の表3から、「ポピュラー・ソング文法シラバス」とも呼ぶべき半期指導計画案を次に示すことにする。基本的な考え方は、文法項目の系統性である。ここで言う系統性とは、文法項目が学習しやすい順に並んでいることを言う。具体的には、品詞の学習から始めて、文型の中心をなす動詞について学習し、そののちに句・節の学習、あるいは文の種類や複雑な修飾語句や高度な時制の学習へと進む。また、比較しながら学べば理解しやすく定着も期待できるものは、連続して学ぶ。た

例えば、仮定法過去と仮定法過去完了は、あまり時間をあけないで学習したほうがより効果的だろうという考え方である。ただし、すべての文法項目を網羅することは目標としない。網羅することを目標とする科目が必修科目として別途存在するからである。本科目は、選択科目として、いくつかの文法項目について学習することを目指す。ただ、選定した項目は、中学校では学ばないが高等学校で学ぶことになっている項目を多く取り上げるようにしている。

表4 半期の指導計画案

回数	曲名	当該時間内で扱う文法項目
1	Hey Paula / Honesty	さまざまな品詞①（動詞，名詞，副詞），その他（marry）
2	I'm In The Mood For Dancing / Sir Duke	さまざまな品詞②（前置詞）及び前置詞句を用いた感情表現
3	The Tennessee Waltz / Jamaica Farewell	動詞の時制①（現在形，過去形，現在完了形，過去進行形，未来表現）
4	Itsy Bitsy Teenie Weenie Yellow Polka Dot Bikini / Yesterday Once More	動詞の時制②（現在形，過去形，過去完了形），その他（接続詞 that, be afraid to/that ～, 使役動詞make）
5	Oh, Pretty Woman / Locomotion	文の種類①（命令文），その他（命令，依頼の表現）
6	The End Of The World / ※ Saturday Night ⁸	文の種類②（疑問文），その他（関節疑問文，口語の短縮表記）
7	The One / The Sounds Of Silence	関係詞①（who, that）
8	We Are The World	関係詞②（when）
9 ⁹	Bridge Over Troubled Water / Hotel California / Don't Want To Miss A Thing	文の種類③（感嘆文），接続詞（when）
10		知覚動詞（hear, watch, feel），仮定法過去①
11	El Condor Pasa / Tears In Heaven	仮定法過去②
12	I've Never Been To Me / Never Had A Dream Come True	仮定法過去完了，仮定法過去と仮定法過去完了のまとめ，その他（ain't, There is no use ～ ing, no matter where/how ～）
13	※Annie's Song	その他（前置詞like, Let me ～）
14	※Can't Take My Eyes Off You	to不定詞，その他（too ～ to…）
15	---	まとめ及び課題（レポート）の指示，あるいは学生のリクエストを受け入れるための余裕時間

⁸ 「※」を付した楽曲は、投げ込み的に実施時間が取れそうな回に挿入した。これらの楽曲は、系統性にかかわらず、自由に交換・移動が可能である。

⁹ 第9回・10回は、2回で3曲を扱うこととする。

* 第7・8回と第9・10回は、それぞれ2回で一つの単位と考えることができる。その上で、系統性を考えた場合、「文の種類」の系統性を重視するか、「仮定法」の系統性（第11回以降とのつながり）を優先するかという選択になる。この案では、「仮定法」を優先した。

おわりに

本項では、科目「グラマー」と同時に開講されている本科目が、文法の指導に重きを置く方向に傾いていくのは、学習者の興味づけという面からの影響はないという基本認識の上で論じてきた。しかし、ある一定量の文法指導がなされると急激に学習者が興味を失っていくのではないかという常に危険性をはらんでいるというのも、これまで授業を実施してきた経験から持っている危惧である。この「一定量」の存在を検証し、その量を測る尺度を作り、どこで文法指導をバランスするのかを考察するのが今後の課題である。同時に、表3に示した項目が学生の印象に残ったかどうか、つまり、特定の文法力が伸びたことを検証するべく実践研究を続けたいと考えている。

引用文献

- 大橋典晶.『中国短期大学における選択科目「ポピュラー・ソング」の指導目標と教材』。「中国学園紀要 第8号」 pp. 35-43. 2009
- 大橋典晶.『中国短期大学における選択科目「ポピュラー・ソング」の教材と指導手順』。「中国学園紀要 第9号」 pp. 23-29. 2010
- 中国短期大学.「平成23年度 学生便覧・授業概要」.中国短期大学. 2011
- 中国短期大学.「学生による授業評価アンケート集計結果」(平成20年度から22年度まで).中国短期大学. 2008-2011
- 土屋唯之.「英語の歌は生きている!—くわしくやさしい名曲選」.南雲堂フェニックス. 1996
- 中嶋洋一.「“英語の歌”で英語好きにするハヤ技30」.明治図書. 2000
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編(平成21年12月)』
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/01/29/1282000_9.pdf

